

## 1. おおむね 20 年後の将来の人口見通し【中野平地域】

- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の将来を見据えた「都市計画に関する基本的な方針」を定める計画です。
- おおむね 20 年後の将来の人口見通しを把握するため、100m メッシュ別人口密度分布と将来の人口増減数の見通しを整理しました。

### ▼データの出典

2015年	総務省統計局「平成27年国勢調査地域メッシュ統計」を基に作成
2040年	国土交通省「国土数値情報[500mメッシュ別将来推計人口データ(H30国政局推計)]」を基に作成 ※H30国政局推計は、平成27年国勢調査を基準として、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」に準拠した推計データ

図 1-1：現状の 100m メッシュ別人口密度分布（平成 27 年国勢調査）

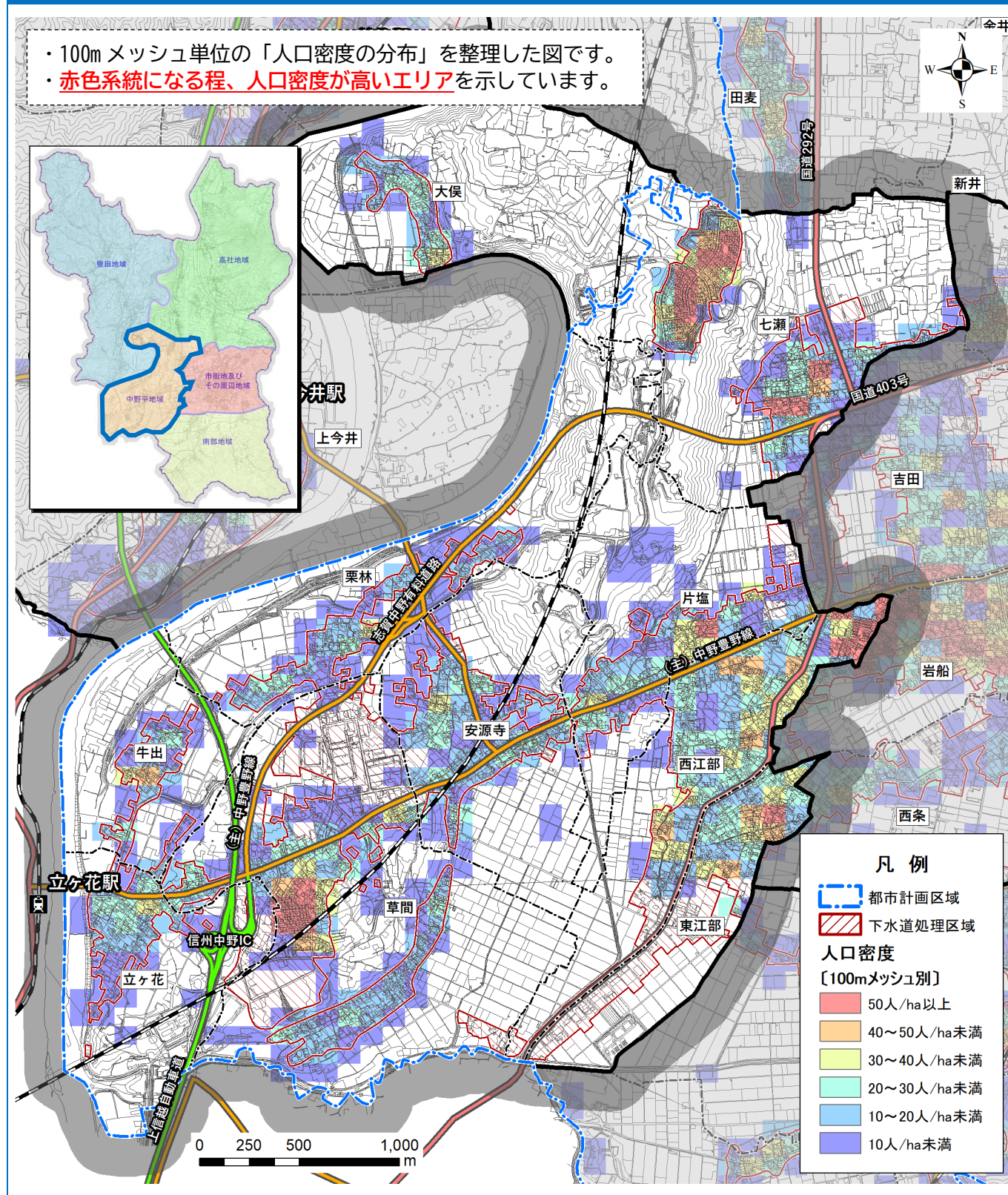
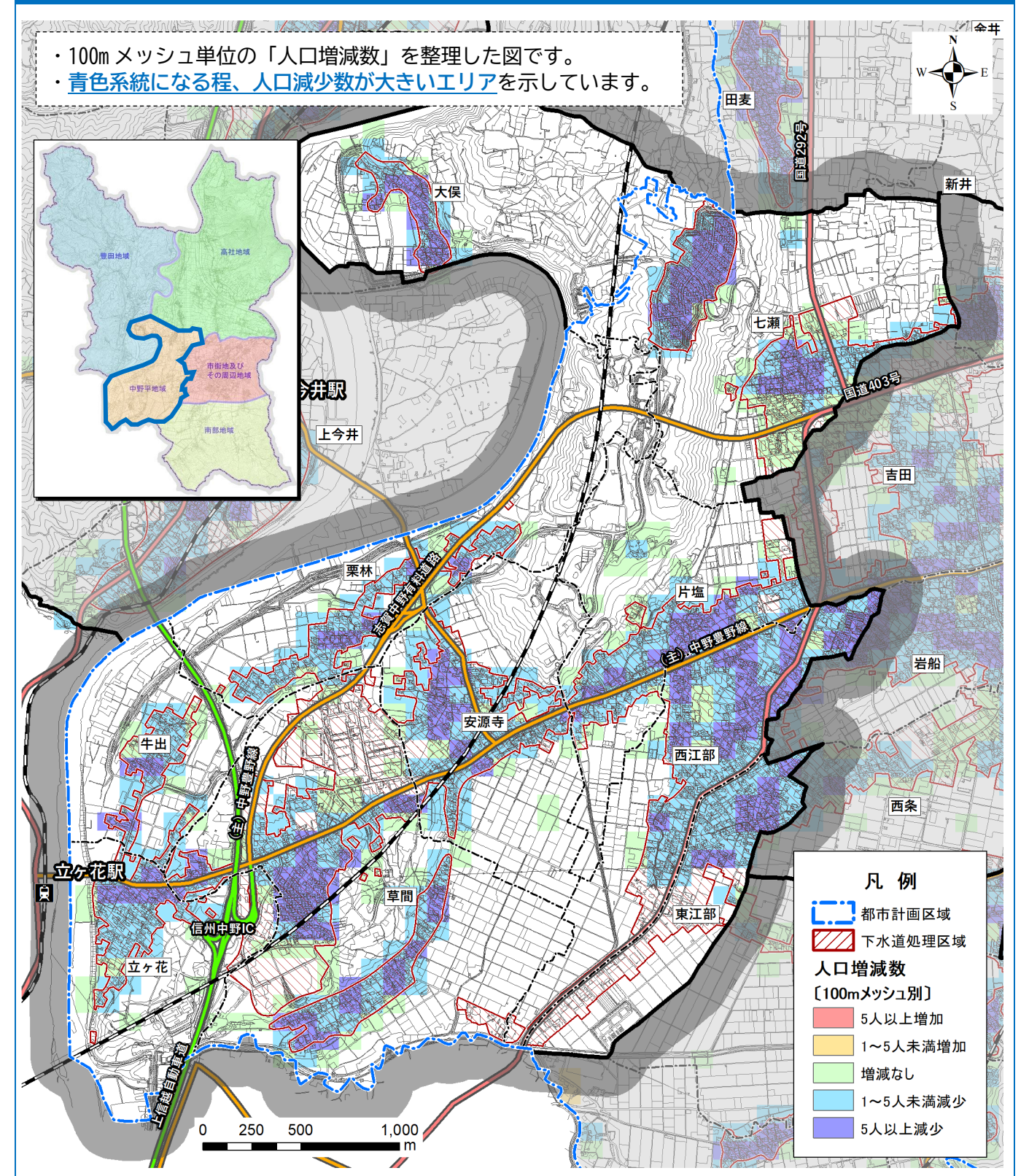


図 1-2：将来の人口増減数の見通し(社人研推計準拠)：2015年(平成 27 年)～2040年(令和 22 年)





## 2. 中野市まちづくりに関するアンケート調査結果の概要

〈アンケート調査の概要〉

【アンケート期間】令和3年9月【アンケート対象者】市内在住16歳以上3,000人

【アンケート回収状況】回収数1,247件（うち、中野平地域回答数：210件）、回収率41.6%

### 2-1 地区の「住みやすさ」についての満足度と重要度

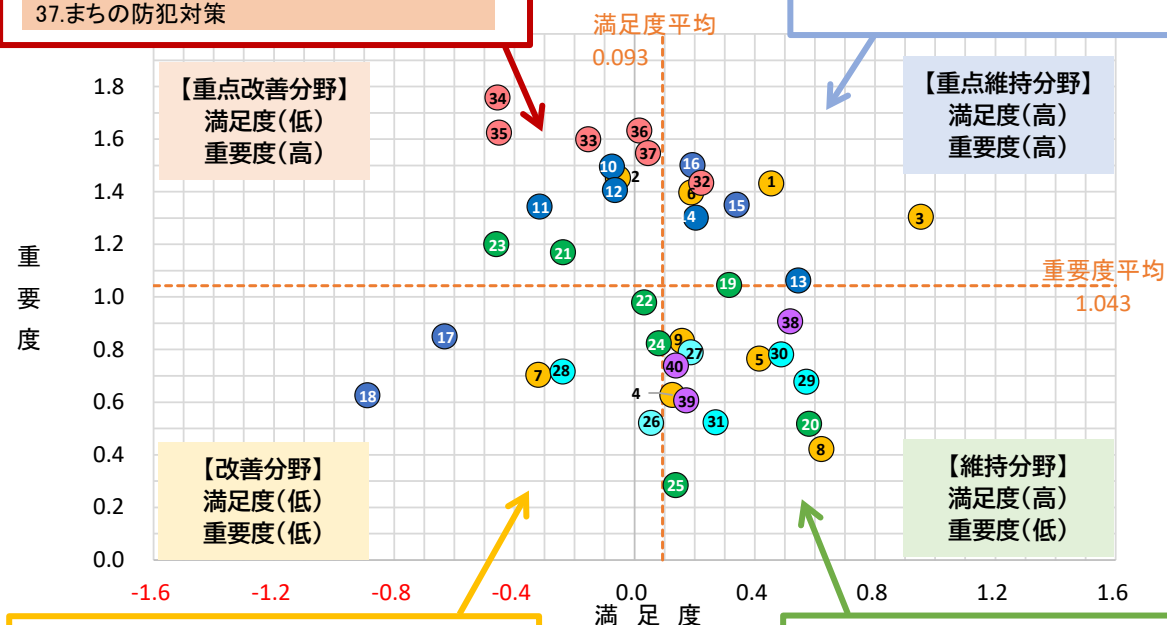
○中野平地域では、子ども・子育て環境や買い物の便利さ等が評価されています。一方で、水辺空間や子どもの遊び場、安全・安心(=防災や防犯)、道路整備等については改善が必要といえます。

#### 特に改善が必要な施策(11)

- 2.高齢者・障がい者の生活のしやすさ
- 10.歩行者に対する安全性
- 11.道路の通行のしやすさ(自転車・バイク)
- 12.道路の通行のしやすさ(自動車)
- 21.河川や湖など水辺空間の環境保全
- 23.身近にある子どもの遊び場の整備
- 33.地震災害に対する安全性
- 34.土砂災害・風水害に対する安全性
- 35.雪害に対する安全性
- 36.避難場所・避難路の分かりやすさ
- 37.まちの防犯対策

#### 着実に推進する施策(9)

- 1.子ども・子育て世代の生活のしやすさ
- 3.日照や静かさのある環境
- 6.近所での買い物の便利さ
- 13.広域(市外)への行きやすさ
- 14.通勤・通学のしやすさ
- 15.買い物への行きやすさ
- 16.医療・福祉施設などへの行きやすさ
- 19.森林など自然環境の保全
- 32.火災・延焼に対する安全性



#### 周知・改善が必要な施策(7)

- 7.市内の中心部での買い物の便利さ
- 17.鉄道の利用しやすさ
- 18.バスの利用しやすさ
- 22.スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備
- 24.道路や公共施設の敷地の緑化
- 26.沿道や街並み、家並みの美しさ
- 28.駅周辺や中心街の都市景観の美しさ

#### 維持及び認知度向上を図る施策(13)

- 4.空き家・空き店舗の少なさ
- 5.近隣の建物の密集や老朽の程度
- 8.工業団地の整備・工場等の立地
- 9.優良な農地の保全
- 20.寺社の境内地などの森の保全
- 25.民間施設や工場の敷地の緑化
- 27.水辺や眺望などの風景の美しさ
- 29.田園景観の美しさ
- 30.歴史的・文化的景観の保全状況
- 31.屋外広告物の規制
- 38.ご近所付き合いの機会
- 39.まちづくりへの市民参画の機会
- 40.まちづくりに関する情報提供

〈施策分野の凡例〉

- 土地利用・居住環境
- 道路・交通
- 公園・緑地
- 景観
- 安全・安心
- 市民参加等

### 2-2 中野市の将来像について

「地震や大雨、大雪、火災などのあらゆる災害に強いまち(59.7%)」が最も高く、以下、「買い物がしやすく、活気があふれる中心市街地をもつまち(51.5%)」、「生活道路や公園などが充実した、住みやすいまち(36.2%)」の順となっています。なお、若い世代では「買い物がしやすく、活気があふれる中心市街地をもつまち」の回答割合が高い傾向があります。

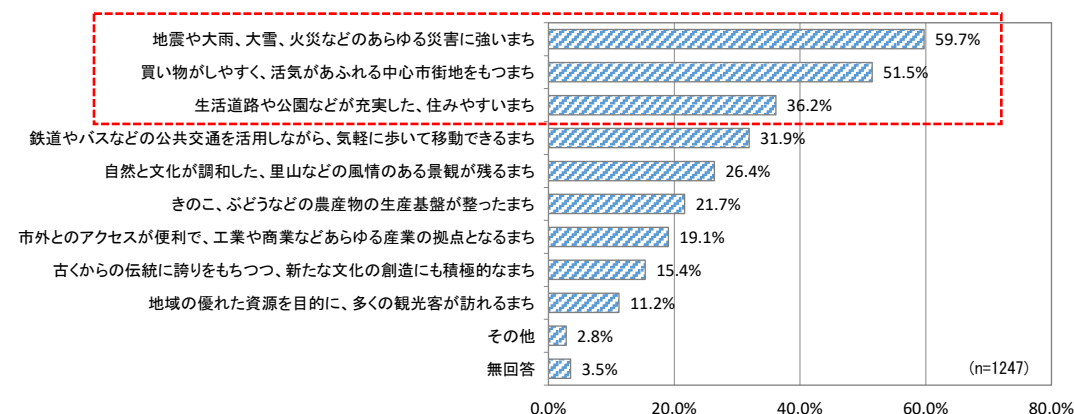


図 中野市の将来像(単数回答)

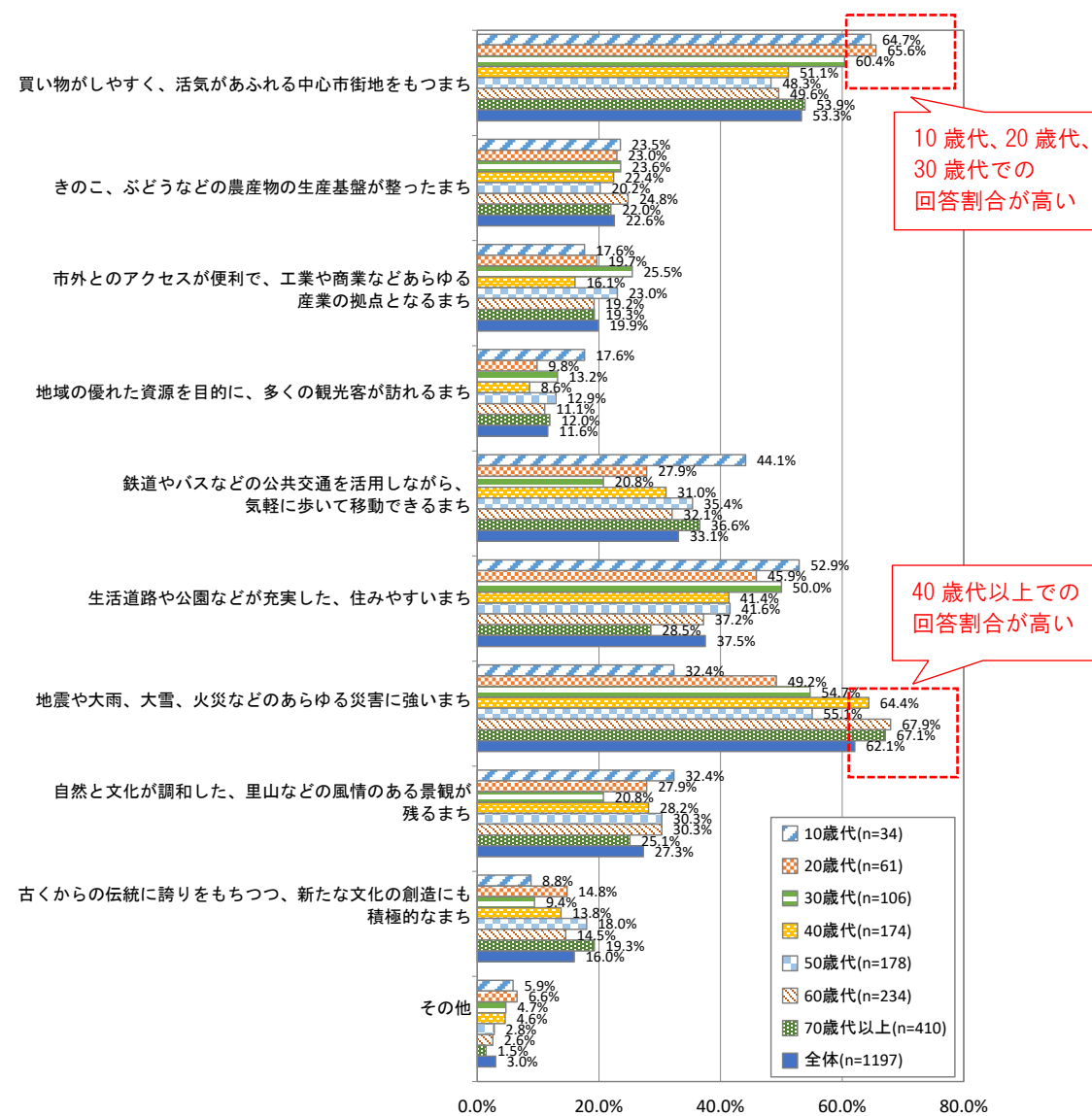


図 中野市の将来像(年代別クロス)

### 2-3 定住意向

中野平地域では「現在の居住地に住み続けたい」の回答割合は74.6%であり、市の全体（77.1%）を2.5ポイント下回っています。

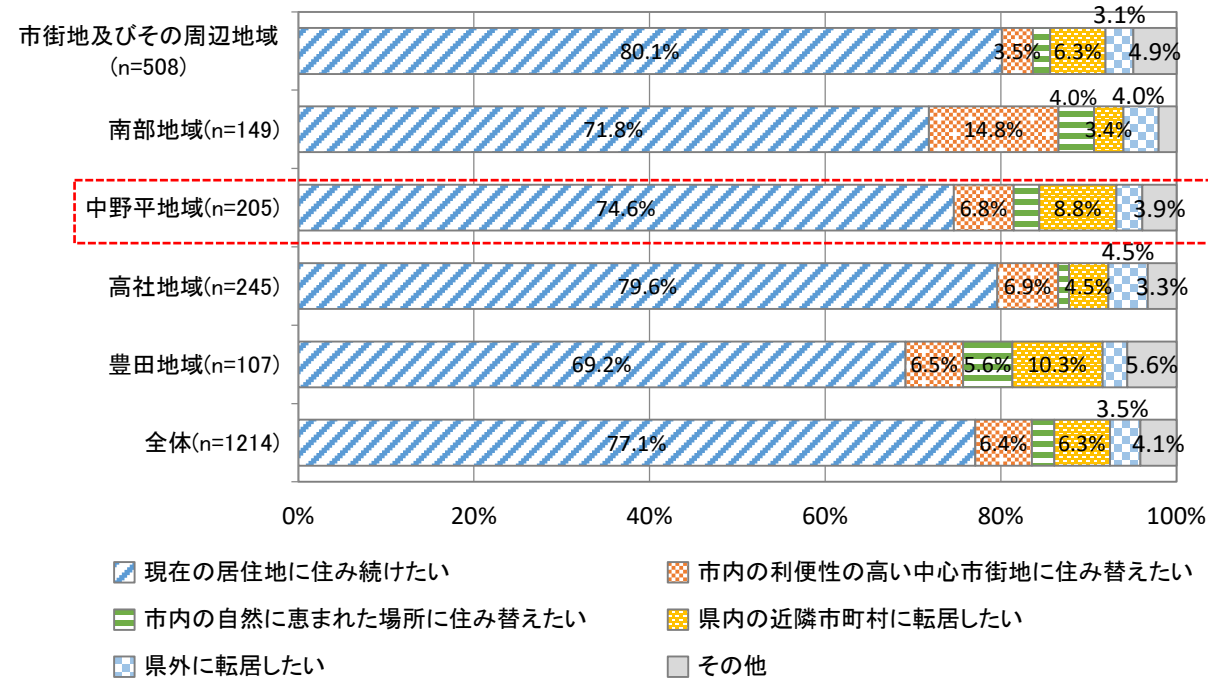


図 定住意向（地域クロス）

### 2-4 外出する際に最も利用する交通手段

中野平地域では「自家用車」の割合が87.3%で市全体の水準を上回っています。一方、「路線バス」、「鉄道」の回答割合は低い水準となっています。

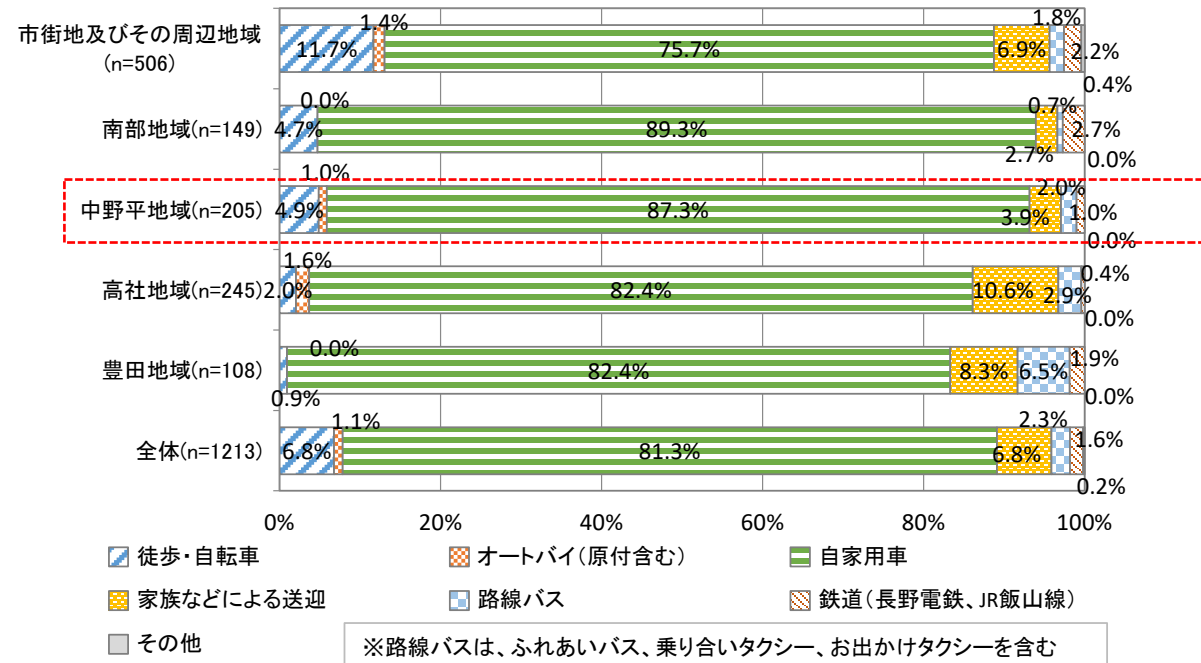


図 最も利用する交通手段（地域クロス）

### 2-5 中心市街地で維持・充実すべき施設

中心市街地(信州中野駅周辺)で維持・充実すべき施設として、「総合的な医療サービスを受けることができる病院(64.7%)」、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(60.1%)」の割合が特に高く、市民生活を支える基幹的な機能の適正な配置が求められています。

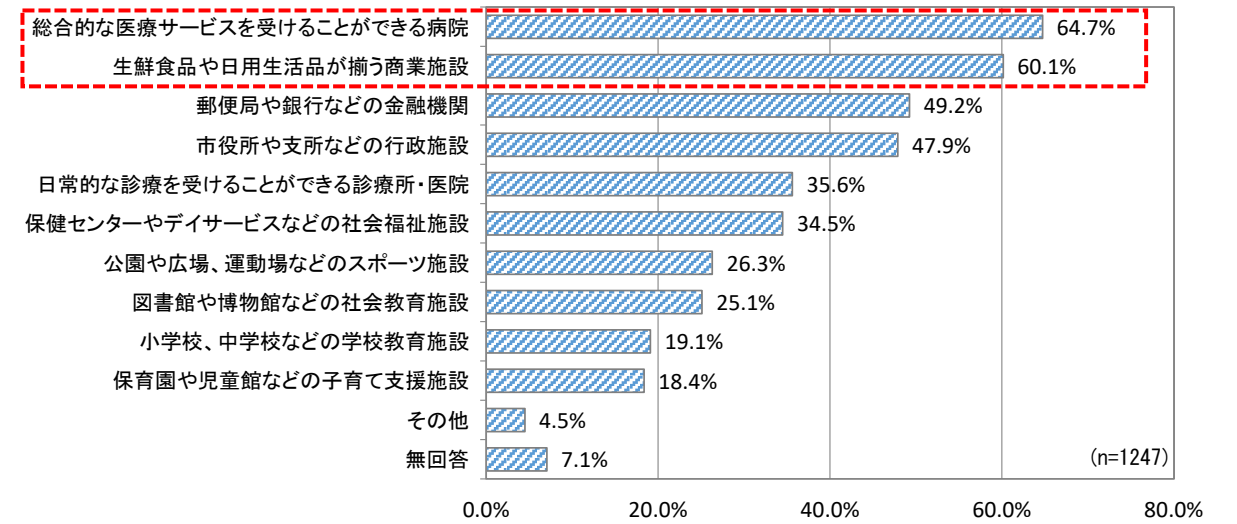


図 中心市街地で維持・充実すべき施設（5つまで回答）

### 2-6 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべきだと思ふ施設

国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設として、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(71.8%)」の割合が特に高く、次いで「公園や広場、運動場などのスポーツ施設(42.3%)」、「郵便局や銀行などの金融機関(40.3%)」の割合が高くなっており、自家用車での利便性が高い施設の立地が求められています。

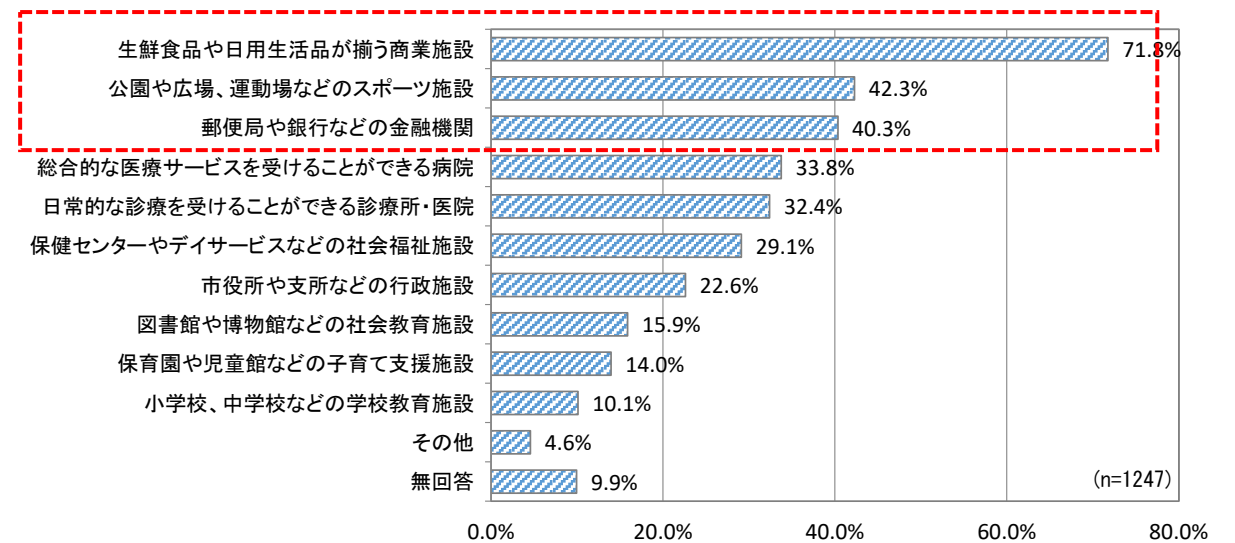


図 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設（5つまで回答）

## 2-7 防災・減災対策として、重視すべき取り組み

### (1) ハザードマップの認知度

「ハザードマップを見て、自宅付近の災害危険性を確認している」は約5割となっています。

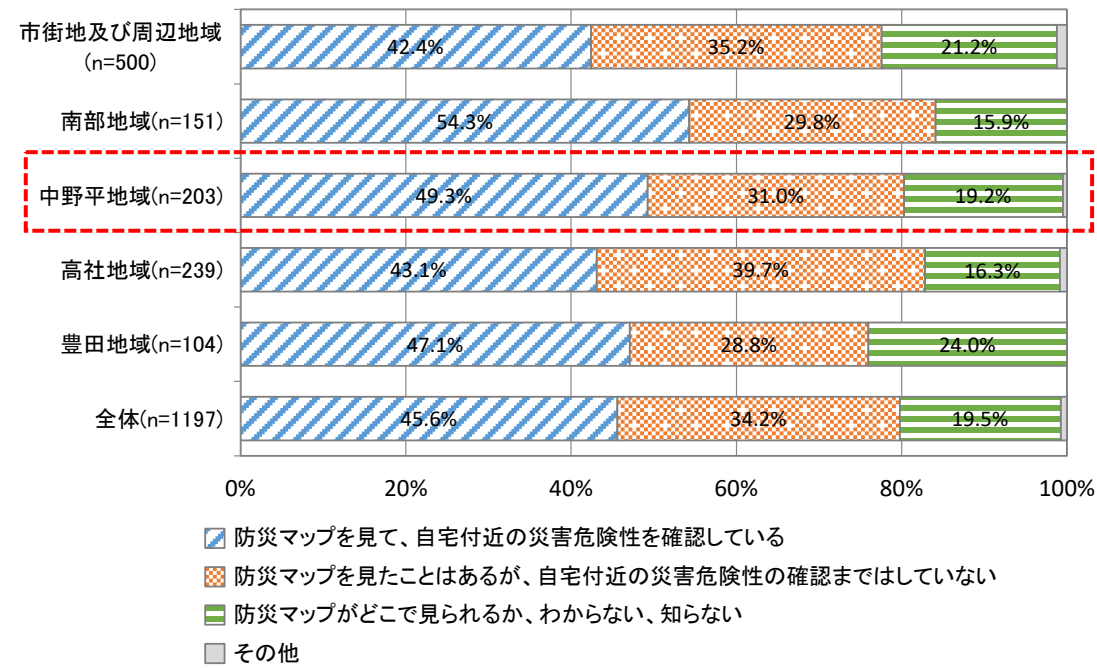


図 ハザードマップの認知度（単数回答）

### (2) ハード対策

ハード対策として、特に「主要河川や水路における河川改修などの氾濫対策(65.0%)」を重視している傾向があります。

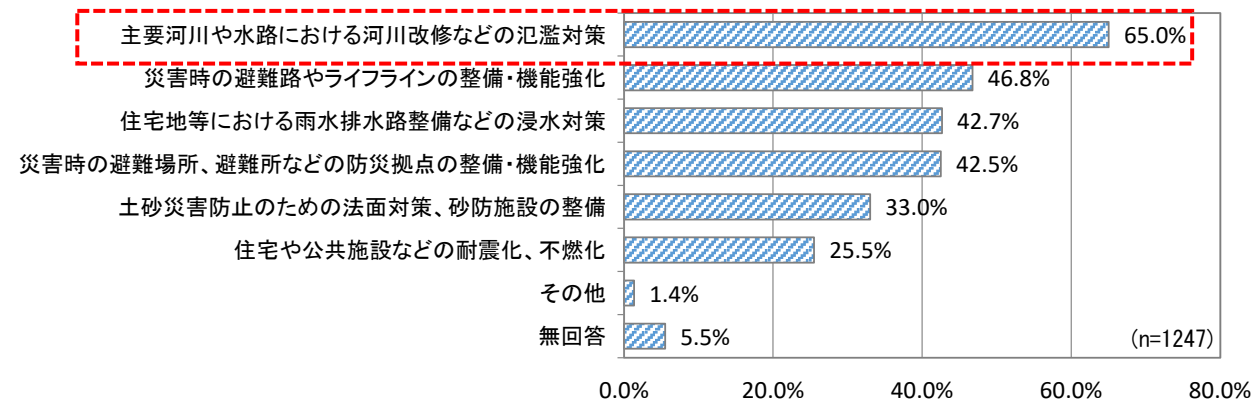


図 防災・減災に向けたハード対策（3つまで回答）

### (3) ソフト対策

ソフト対策として、特に「防災行政無線や緊急メールなどの情報伝達手段を活用した、迅速かつ正確な情報発信(81.2%)」、「自力で避難することが困難な人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり(76.7%)」を重視している傾向があります。

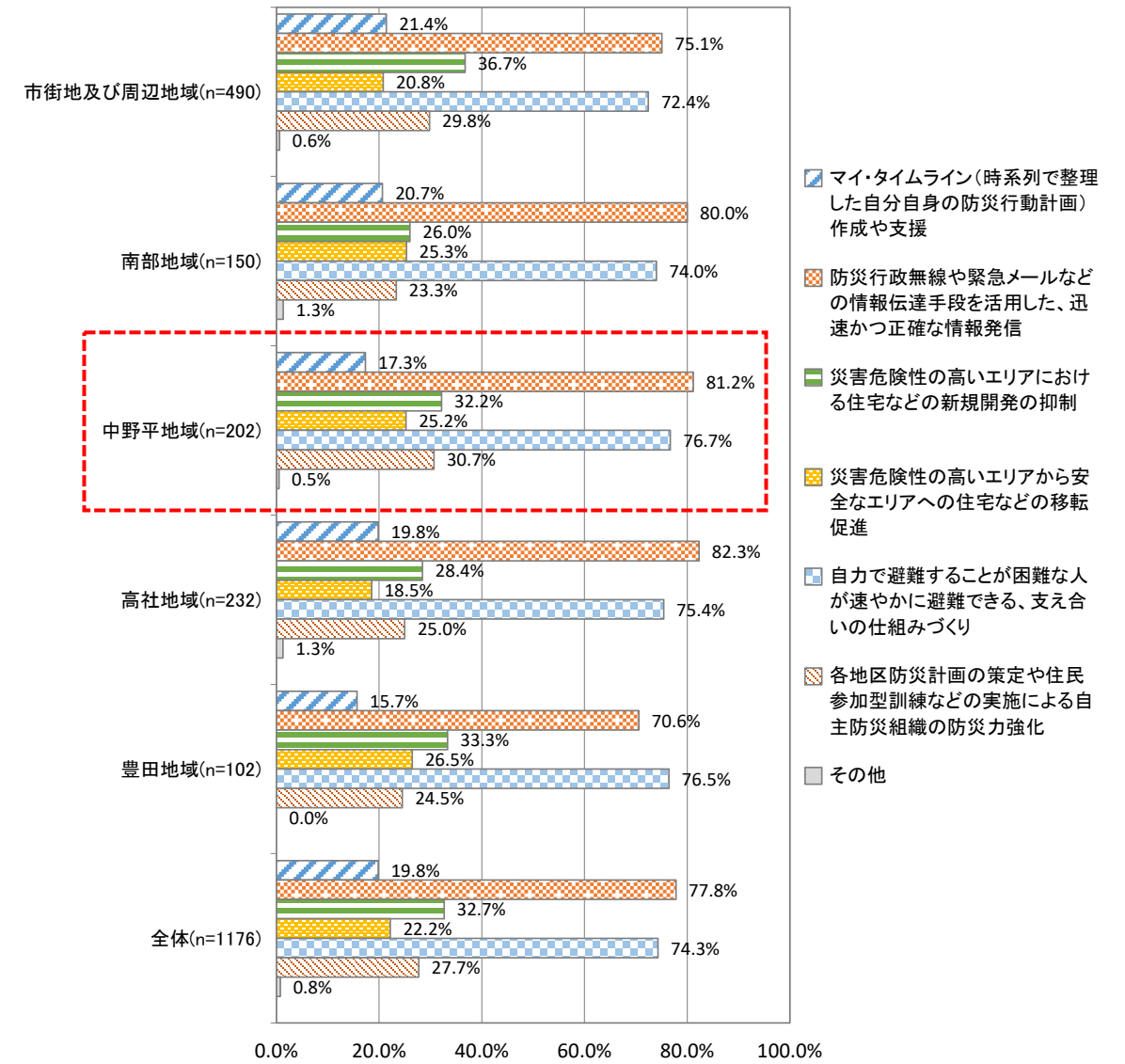


図 防災・減災に向けたソフト対策（3つまで回答）



### 3. 参考：現行計画における地域別構想の内容【中野平地域】

- 参考として、現行の中野市都市計画マスタープラン(平成 21 年 3 月策定)における地域別構想で位置づけられた「4つの分野別の整備方針」及び「構想図」を整理しました。
- 今後、上位関連計画の方針と整合・調整を図りながら、整備方針の見直し案を作成する予定です。



現行計画	地域の目標	信州中野インターを中心に本市の玄関口、産業拠点として発展をめざすまちづくり
	地域の基本方針	信州中野インター周辺の利便性を生かした工業・流通産業の推進と沿道サービス型の観光・商業機能に加え、北信濃ふるさとの森文化公園・浜津ヶ池公園を拠点とする本市の玄関口としての形成をめざします。

#### (1) 土地利用の方針

【現行計画】整備方針	
1	信州中野インター周辺は、その利便性を生かし流通やサービス施設等の秩序ある立地を図り、高丘工業団地を中心とする産業振興を推進します。
2	地域を縦断する丘陵の緑の保全に努めます。
3	都市計画区域の未指定地域について、指定拡大を検討します。
4	周辺農地については、農業生産の場として無秩序な開発を抑制しつつ、まとまりのある保全に努めます。
5	集落地の住環境の維持に努めます。
6	低未利用地の適正な活用を図ります。

#### (2) 道路、交通体系の方針

【現行計画】整備方針	
1	補助幹線道路や主要な生活道路については、主要幹線道路や幹線道路のネットワークを基本としながら、地域内に散在する各拠点地区・施設や集落地間の連携を強化するため、計画的に配置し、その整備を推進します。
2	除雪等、冬期間の交通安全対策に努めます。
3	公共交通の見直し検討を行い、利用促進、運行の維持に努めます。

#### (3) 環境保全・景観形成の方針

【現行計画】整備方針	
1	大規模開発や施設立地を制限しつつ、沿道の適正な土地利用を促進します。
2	県の景観条例に基づき景観の保全に努めます。
3	歴史的価値のある建造物の保存に努めます。

#### (4) 都市防災の方針

【現行計画】整備方針	
1	千曲川などの氾濫、内水対策や急傾斜地の崩落防止など治山・治水対策を促進します。
2	建築物の耐震化及び不燃化を促進し、集落地内における住宅密集地での災害の防止に努めます。

